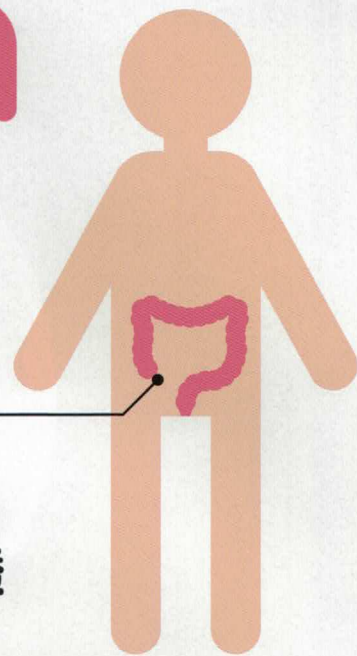


臓器のはなし



今月は 盲腸

保存的治療もあります 免疫面の重要性が浸透

痛みの原因は
盲腸でなく虫垂

盲腸は、小腸の出口と大腸の入り口の境目あたりにあります。馬など草食動物の盲腸は大きく、植物を消化する働きをしていると考えられています。人間の場合は、進化の過程で消化の働きが失われてしまったため、小さくなったといわれています。

「盲腸」は、お腹が激しく痛む病気の代表的なものです。

が、激痛の原因になっている大本は、盲腸そのものではありません。盲腸には、虫垂と呼ばれる細いヒモのような袋状の臓器が付いています。その内部で起きる細菌感染による炎症が痛みの原因で、正式な病名は「虫垂炎」です。

虫垂炎にかかった場合、昔は切除する手術がよく行われていました。最近は、切らないことも多くなっています。軽症のものに関しては、抗生物質によって、痛みを散らすのが、基本になっています。散らすといっても、先延ばししているわけではありません。抗生物質で炎症を抑えることができ、初期の症状なら薬だけで治療するケースも多くなっているのです。

虫垂の役割が
見直されてきた

ただし、切って治す場合も当然あります。虫垂炎の再発を繰り返す場合、そして炎症が悪化し腸管に穴が開き、菌がお腹全体に広がる腹膜炎のように重症化した、もしくは重症化しそうな場合、手術で切除します。

ですが、手術数は昭和後半の頃に

比べると減少しています。機器等の進歩による早期診断、抗生物質の質の向上、衛生環境が良くなり、感染症が減少しているからでしょう。また炎症の原因となる便秘が、下剤の進化で改善されるようになってきたのも要因だと思われれます。加えて繊維質を含むお通じがよくなる食べ物を、よく食べるようになったという生活の変化も影響しているようです。これらの理由が重なり、虫垂炎自体が減少しているとの報告もあります。

そして免疫学の進歩により、不要だと思われてきた部位が、実は必要なのだとかわかってきました。その一例が虫垂です。「盲腸(虫垂)の役割はない」という考え方でしたが、虫垂には、ばい菌を殺す抗体を作る免疫細胞が、たくさん集まっているということがわかってきました。

さらに、盲腸を除去した人としていない人を比較すると、前者のほうが、大腸がんの発症率が高いという論文もあります。虫垂の免疫細胞が、がんを抑制しているのかもしれない。臓器には必ず何かの役割があるはず。ムダな臓器はないのです。

虫垂炎の治療方法の
比較データ

	外科手術	抗菌薬治療
治療費用	約8万3千円 高額療養費制度を利用した場合	約6万5千円 自己負担3割と仮定
痛みが続く期間	1.6日	1.7日
傷あとの長さ	3cm以内	なし
入院期間	2.9日	3.2日

監修

浅海 直
あさうみ すなお

(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。